

基本理念

「笑顔あふれ、光り輝くまちづくり」



▲水産業、地元企業を守り抜く



▲子ども、お年寄りの幸せ



▲福祉によるまちづくり

流人口や関係人口の増へとつながる、道の駅を拠点とした食と観光による各事業を展開し、地域循環型経済の構築を目指して参ります。そして、子ども、お年寄りの幸せや福祉によるまちづくりは、住みたい、住み続けたいを希求し、鹿部史上最大となる子育て支援やスポーツ、文化の促進、まちづくりや産業と結びつく社会教育の実現、そして、デマンド交通など地域公共交通の整備・維持、若者向け住宅やシルバーハウジング的要素の住環境整備の早期着手を目指し、生活支援体制整備やコミュニティカフェ、カフェぽっぽなどによる、ご高齢の方や障がいのある方にも、やりがいや居場所をつくり、どなたでも安心して暮らせる地域共生型社会の構築を目指して参ります。

私たちは東日本大震災で「絆」の大切さを学び、胆振東部地震のブラックアウトでは一極集中の危うさを知り、新型コロナウイルス感染症の蔓延では、行き過ぎたグローバル化によるウクライナ侵攻でも改めて、食料、エネルギー、経済における自主自立、独立自尊の精神を忘却してはならないことを痛感いたしました。災害に強いインフラ整備、自前エネルギーなどGX・グリーントランスフォーメーションへの挑戦や人をつなぎ、より人間中心の社会とする、DX・デジタルトランスフォーメーションに取り組み、いざ、都市との分断が起こっても、しっかりと、社会生活や経済が回る、強い地域、強いエリアを近隣市町村との連携の中で築き上げ、ふるさと鹿部を次の時代へしっかりと引き継いでいかなければならないと考えております。

具体的な内容等については、各分野における施策の中で申し上げますが、まず、本町における行政運営の最上位計画であり、長期的な「まちの目指す姿」や施策を示す「第6次鹿部町総合計画」について申し上げます。令和3年度から策定作業を行って参りました「第6次鹿部町総合計画」が令和5年度からスタートします。策定にあたり、町民アンケートをはじめ、策定審議会委員の皆様など、多くの方々のご協力を賜り、感謝を申し上げます。

第6次鹿部町総合計画は、いつまでも美しく様々な恵みを町民に与えてくれる噴火湾、まちを見守るようにそびえたつ駒ヶ岳、また、代々受け継がれている大地の恵みの温泉など、本町のシンボルであり、誇りや魅力を次世代に継承していきたいという願いを込めた「きらめく海・駒ヶ岳・う